

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘 (1階ユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6丁目6-6		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2295300202-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添う介護をテーマとして施設側の都合に合わせるのではなく、御利用者様の生活支援の為、意思決定支援をし個別ケアを考えて対応しております。医療法人社団秀慈会として医療面のバックアップがあり、御利用者様と御家族様に安心していただける環境とも思っています。レクリエーションや行事を充実させ御利用者様はもちろん職員も笑顔になりコミュニケーションがたくさんとれる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や職員も含めて皆家族ということから「家訓(理念)」があり、運営の優先順位の一番上が利用者としており、一番大切にしているのは「利他の心をもって職員間の和を作為し、礼をもって和を節すること」です。理念の実現に向け、「言葉遣いを大切に利用者に接する」「利用者の話をしっかり聴く」「業務伝達であっても丁寧な言葉に配慮する」ということを管理者は都度職員に伝えています。その成果だと思われませんが、訪問時には職員の挨拶の良さが目を惹きました。また、利用者も何かにつけ職員に声をかけて要望を伝えていて、日頃の関わりから言いやすい関係が構築されていることを感じました

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓はR3年より新しくなっています。家訓と理念に基づき桃源の丘の方針、方向性を職員で共有し実践につなげていきます。	利用者や職員も含めて皆家族ということから「家訓(理念)」があり、運営の優先順位が一番上が利用者としており、一番大切にしているのは「利他の心をもって職員間の和を為し、礼をもって和を節すること」です	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流はほぼない状況にあります。施設周辺を散歩したりした時に近所の方々と挨拶をする程度であります。	自治会に入っていることから、公民館での夏祭り、小学校での夏祭りには、引換券をもらったりしています。職員が顔を出すことはあっても利用者が高齢との理由で、事業所として参加はしていません	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流はできていない状況であります。運営推進会議で民生委員、地域包括支援センターなどの方々と事業所の状況・取り組みの報告をし理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や議題に対しての取り組みの報告をし意見交換を行いサービスの向上、運営方針につなげている。	運営推進会議では、出席の薬剤師から「脱水症状については経口補水液や薬での対応もできる」との助言が上がり、医師に相談しつつ薬として処方に至った事例もあります	「令和7年2月開催は参加者が少なく、利用者にもコロナ感染者がいたため書面のみでの報告」とあります。5類移行となっておりますので、翌月コロナが収まる頃の開催として、「年6回開催」となるよう期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の不明な点や疑問点を問い合わせたりしています。今年度は法改正で加算について確認の問い合わせを多くしました。その他では積極的な連携はないです。	地域包括支援センターへは事業所から空き状況を速やかに伝えており、またセンターからも照会があり、日頃から関係性が高いこともあって、運営推進会議において欠席だった場合は直接議事録を届けています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をしている利用者様はいないです。今後も身体拘束0を目標とし、職員と努力をしています。	抑制やスピーチロックが起きないように、例えば「利用者が不意に立ち上がった時に、慌てず先ずは手を添えて一緒に歩きだし、会話をもちつつ気持ちをサポートする」等、関わりについて職員間で共通の実践があります	「身体拘束委員会」は「身体拘束防止委員会」としたほうが適切のように考えます。また、議事録は職員間で回覧(現在は研修のとき伝えていますが)することを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の虐待だけでなく、スピーチロックや言葉の虐待に対しても職員全員で気を付けるように心がけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡をおこなっている。物品の補充や面会も必要に応じておこなっています。遠方の方、仕事の忙しい方、家族の事情も把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点やわからないことを尋ね、十分に理解していただくように努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの意見など問い合わせがあれば、管理者が応対し職員で共有しております。	便り「桃源の丘通信」を2か月に1回発行するほか、「車いすになると、筋力がおちるのが心配です」といった意見には「支えながら歩行訓練できますよ」と、安心となる取組を提案しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞くようにしています。管理者や役職者も職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係雰囲気作りに努めています。	長く勤務している人や、主張の強い人の意見に引きずられてしまうことを改善したいと考え、言葉に出せない人の意見も取り入れるべく、職員意見の窓口を副主任と定め、全体の意見吸い上げを図っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の思いを伝え、より一層やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパス研修の参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携屋やスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他者やケアマネ、認定調査員、福祉用具の方たちと交流をはかり、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、御本人様との信頼関係作りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく、各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療が必要な支援があれば法人内の医師に相談したりし連携をとっている。状況に応じて優先順位を考えた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳を大事にし必要に応じて職員がお手伝いをさせていただく。出来る事は継続しておこなっていただき、自分らしさを活かして生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に御家族様に利用者様の様子や変化、気付いたことを伝えるようにしています。また御家族様の要望や思いを聞き、協力をしていっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様だけでなく親族や友人の方々との面会も設けています。食事などの外出の機会も対応しています。	毎朝トーストパンとの習慣や編み物といった趣味を継続しています。中でもクロスワードが得意な人は、事業所でとっている新聞掲載を楽しみにしており、訪問時にも電子辞書を扱いながら解いている姿を視認しました	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々のちょっとしたレクリエーション、誕生日者のお祝いなど、利用者様がコミュニケーションができる空間が出来るように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡などで相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に御本人様の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思い伺い検討している。	生活や入居に至る経過等が記載されたフェイスシートをベースとして、日常的な会話から意向を掴んでいます。訪問時にも利用者が職員に何かにつけ要望を伝えていて、言いやすい関係にあることが覗えました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で過ごされていた時に近い環境や生活習慣に配慮して対応している。御本人様や御家族様からの聞き取りを大事ににして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心と安全にその人らしく1日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、心身のケアについて今後のケアの方向性などを話し合い計画を見直すようにしています。	介護計画書は意向の反映として取り組んでいます。本人と家族の意向が食い違った場合は、それぞれの思いや考えを踏まえ援助の方針を詳らかにし、サービス内容へと反映させるようにさせた事例もあります	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかったことを発見し、意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護、歯医者などの訪問を利用し、利用者様の健康維持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩したり、季節に合わせたレクリエーションで桜や紅葉などを見に外出をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察に来ております。緊急時も主治医との連携がとれるようになっております。外部への受診は御家族様をお願いしています。	母体病院の医師による訪問診療が月1回あります。1回に1ユニット9名を診療する為、事業所には月2回の訪問です。受診の記録は、「診療記録」に記入することになっており、管理者が立ち会っています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただいております。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している、看多機の看護師に連絡して、対応していただけるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後に医療機関や御家族様との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有がスムーズに行えるように医療機関の相談員と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様の考えや希望を伺ったうえで、法人内のできることをお伝えする。系列の病院に入院できることをお伝えする。看取の場合は、訪問看護、主治医との連携をとり、チームで支援に取り組む。	「食事が摂れない」「水分摂取量が減ってきた」といった重度化へ向かう症状が見られてきたら、協力医(母体病院)に受診を要請し、その後入院になる流れが出来ており、事業所では看取りはおこなっていません	重度化に係る指針が現在ありません。法令での規程はないため不具合はないと法人が判断したのでしたらかまいませんが、全ての事業所にあるものですので、一度検討することを期待します
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成し提示してある。初期対応や応急処置に関しては看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い、避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意し、災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。	今年度は防災訓練を1回実施しています。各階の出入口がオートロックのため、停電では開閉に困ることを想定し、非常階段の使用について検討しています。どのように誘導するかについて話し合っている最中であり、2回目は3月の予定です	以下3点期待します。①夜間想定の実施 ②訓練を年間計画に組み込む ③消防署へ計画を提出する

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人様や御家族様の想いを尊重し、安心安全に過ごせただけよう考えています。居室には馴染みの物や希望する物を置いていただいています。	契約時に「個人情報使用同意書」を交わすとともに、守秘義務については契約書に秘密の保持の項目があります。接遇研修は、4月に法人で実施されていますが、参加については勧奨は全く任意です	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声かけなどで一方的なケアを行うのではなく、御本人様に自己決定をしていただきながら職員は対応をする。家訓の通りに利用者様第一に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のADLに合わせた活動やケアで対応し、御本人様の希望に寄り添うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、散髪や入浴後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮しています。 希望時に月に一度のビューティーヘルパーで散髪してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事でも暖かいものは温かく、冷たいものは冷やして提供し美味しく食べていただけるよう工夫している。	「プロの料理人による調理レク」が年数回あり、節分やひな祭りといった行事食にも力を入れています。更に調理レクは利用者も参加していることから、「楽しそうで良かったです」と家族からの声も届いています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食事形態合わせた食事や水分トロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立出来るよう、食器やスプーンなどはご本人合ったものを使用して召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄し施設で管理する。自分で口腔ケアできる方は自分で行っていただき、必要に応じて介助する。 また、訪問歯科を導入し、定期的に受診と治療を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく、一人ひとりのペースに合わせ可能な限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。尊厳、自尊心に配慮した対応を心がけている。	日中は布パンツかりハビリパンツで、夜間テープ式の紙おむつを使用する人が4名います。フロアにトイレが3か所あるので、利用者は移動の時間も少なく、安心して向かうことができる環境となっています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解するよう心がけている。水分補給や運動(体操、散歩)をしたり、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤、ラジオ等の工夫しながら、リラックスした気持ちで入浴頂いている。	浴室の清掃は丁寧におこなわれていることを視認しました。週2回を基本としていますが、過去には「毎日」という例もあります。また現在、同性介助の希望者はいませんが、あれば対応可能としています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せずに居室でゆっくり休んでいただいております。無理をして頂かないよう対応をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解し日々の状態にも注意して様子の変化などに早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスを頂き、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗い物、洗濯物を干したり、畳んでもらったりと生活の中でお手伝い頂けることや季節の飾りつけの作品作りを行ったり花見などの外出を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は季節によっては午前と午後、坂や畑、学校もあり、気分転換になっています。玄関先で日光浴もしています。季節によっては花見などの外出を行っています。	散歩は1回10分程、1日に2~3名で出ており、利用者1名につき週2回程です。花見や紅葉は近くの県立大学広場を活用しています。ドライブがてら、日本平に出かけることもあります	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、全員が出しています。それら以外でも家族の方から手紙がきましてら返信することもあり、職員がお手伝いをさせて頂き書いておます。必要に応じて電話で話す機会もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンでの日光量を調整、窓や玄関を開けての換気、清潔を保つために共用空間の掃除に努めています。フロアや廊下の壁に季節ごとの絵などの掲示物を貼り季節感が出るように努めています。	2階は日差しが強いため、レースのカーテンを上手に使って調整していました。また、キッチンの勝手口のすりガラスからも日差しが入り込んで、利用者が眩しがるとのことから、新聞紙を貼りつけて防ぐ工夫もあります	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては気の合った御利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも共有スペースにて楽しめる居場所作りを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族などの写真やカレンダー、施設で作成した飾りを居室の壁に貼っています。御家族様と御本人様が話し合い必要な物や欲しい物を持ってきていただき居室に置いても大丈夫であることを御家族に伝えています。	事業所で予め備えているのは、ベットとマットレス、掛布団、小さなサイドテーブルです。ほとんどの利用者の居室はそれと写真などの小物のみでしたが、中には衣装ケースを持ちこんでいる部屋もあります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場などの場所がわかるように入り口には表札を貼っています。フロアには通行の邪魔にならないように倉庫や棚に物を収納し安全に生活できるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘 (2階ユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6丁目6-6		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2295300202-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添う介護をテーマとして施設側の都合に合わせるのではなく、御利用者様の生活支援の為、意思決定支援をし個別ケアを考えて対応しております。医療法人社団秀慈会として医療面のバックアップがあり、御利用者様と御家族様に安心していただける環境とも思っています。レクリエーションや行事を充実させ御利用者様はもちろん職員も笑顔になりコミュニケーションがたくさんとれる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や職員も含めて皆家族ということから「家訓(理念)」があり、運営の優先順位の一番上が利用者としており、一番大切にしているのは「利他の心をもって職員間の和を作為し、礼をもって和を節すること」です。理念の実現に向け、「言葉遣いを大切に利用者に接する」「利用者の話をしっかり聴く」「業務伝達であっても丁寧な言葉に配慮する」ということを管理者は都度職員に伝えています。その成果だと思われませんが、訪問時には職員の挨拶の良さが目を惹きました。また、利用者も何かにつけ職員に声をかけて要望を伝えていて、日頃の関わりから言いやすい関係が構築されていると感じました

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓はR3年より新しくなっています。家訓と理念に基づき桃源の丘の方針、方向性を職員で共有し実践につなげていきます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はほぼない状況にあります。施設周辺を散歩したりした時に近所の方々と挨拶をする程度であります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流はできていない状況であります。運営推進会議で民生委員、地域包括支援センターなどの方々と事業所の状況・取り組みの報告をし理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や議題に対しての取り組みの報告をし意見交換を行いサービスの向上、運営方針につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の不明な点や疑問点を問い合わせたりしています。今年度は法改正で加算について確認の問い合わせを多くしました。その他では積極的な連携はないです。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束をしている利用者様はいないです。今後も身体拘束0を目標とし、職員と努力をしていきます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の虐待だけでなく、スピーチロックや言葉の虐待に対しても職員全員で気を付けるように心がけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡をおこなっている。物品の補充や面会も必要に応じておこなっています。遠方の方、仕事の忙しい方、家族の事情も把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点やわからないことを尋ね、十分に理解していただくように努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの意見など問い合わせがあれば、管理者が対応し職員で共有しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞くようにしています。管理者や役職者も職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係雰囲気作りに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の思いを伝え、より一層やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパス研修の参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携屋やスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他者やケアマネ、認定調査員、福祉用具の方たちと交流をはかり、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、御本人様との信頼関係作りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく、各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療が必要な支援があれば法人内の医師に相談したりし連携をとっている。状況に応じて優先順位を考えた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳を大事にし必要に応じて職員がお手伝いをさせていただき、出来る事は継続しておこなっていただき、自分らしさを活かして生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に御家族様に利用者様の様子や変化、気付いたことを伝えるようにしています。また御家族様の要望や思いを聞き、協力をしていっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様だけでなく親族や友人の方々との面会も設けています。食事などの外出の機会も対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々のちょっとしたレクリエーション、誕生日者のお祝いなど、利用者様がコミュニケーションができる空間が出来るように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡などで相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に御本人様の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思い伺い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で過ごされていた時に近い環境や生活習慣に配慮して対応している。御本人様や御家族様からの聞き取りを大事ににして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心と安全にその人らしく1日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、心身のケアについて今後のケアの方向性などを話し合い計画を見直すようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかったことを発見し、意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護、歯医者などの訪問を利用し、利用者様の健康維持に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩したり、季節に合わせたレクリエーションで桜や紅葉などを見に外出をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察に来ております。緊急時も主治医との連携がとれるようになっております。外部への受診は御家族様をお願いしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただいております。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している、看多機の看護師に連絡して、対応していただけるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後に医療機関や御家族様との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有がスムーズに行えるように医療機関の相談員と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様の考えや希望を伺ったうえで、法人内でできることをお伝えする。系列の病院に入院できることをお伝えする。看取の場合は、訪問看護、主治医との連携をとり、チームで支援に取り組む。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成し提示してある。初期対応や応急処置に関しては看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い、避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意し、災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人様や御家族様の想いを尊重し、安心安全に過ごせていただけるよう考えています。居室には馴染みの物や希望する物を置いていただいています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声かけなどで一方的なケアを行うのではなく、御本人様に自己決定をしていただきながら職員は対応をする。家訓の通りに利用者様第一に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のADLに合わせた活動やケアで対応し、御本人様の希望に寄り添うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、散髪や入浴後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮しています。 希望時に月に一度のビューティーヘルパーで散髪してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事も暖かいものは温かく、冷たいものは冷やして提供し美味しく食べていただけるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食事形態合わせた食事や水分トロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立出来るよう、食器やスプーンなどはご本人合ったものを使用して召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄し施設で管理する。自分で口腔ケアできる方は自分で行っていただき、必要に応じて介助する。 また、訪問歯科を導入し、定期的に受診と治療を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく、一人ひとりのペースに合わせ可能な限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。尊厳、自尊心に配慮した対応を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解するよう心がけている。水分補給や運動(体操、散歩)をしたり、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤、ラジオ等の工夫しながら、リラックスした気持ちで入浴頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せずに居室でゆっくり休んでいただいております。無理をして頂かないよう対応をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解し日々の状態にも注意して様子の変化などに早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスを頂き、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗い物、洗濯物を干したり、畳んでもらったりと生活の中でお手伝い頂けることや季節の飾りつけの作品作りを行ったり花見などの外出を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩は季節によっては午前と午後、坂や畑、学校もあり、気分転換になっています。玄関先で日光浴もしています。季節によっては花見などの外出を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、全員が出しています。それら以外でも家族の方から手紙がきましてら返信することもあり、職員がお手伝いをさせて頂き書いておます。必要に応じて電話で話す機会もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンでの日光量を調整、窓や玄関を開けての換気、清潔を保つために共用空間の掃除に努めています。フロアや廊下の壁に季節ごとの絵などの掲示物を貼り季節感が出るように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては気の合った御利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも共有スペースにて楽しめる居場所作りを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族などの写真やカレンダー、施設で作成した飾りを居室の壁に貼っています。御家族様と御本人様が話し合い必要な物や欲しい物を持ってきていただき居室に置いて大丈夫であることを御家族に伝えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場などの場所がわかるように入り口には表札を貼っています。フロアには通行の邪魔にならないように倉庫や棚に物を収納し安全に生活できるようにしています。		